

復刻版の刊行にあたって

1986年の第1回宝来講から、毎年1度ずつの実験歴史学の旅を重ねて、2002年3月には第17回の宝来講を実施した。可能なかぎり忠実に江戸時代の旅を復元してみようという実験的な旅である。奈良から伊勢まで4泊5日の片道旅であるが、道中のさまざまな調査成果も含めて、歩かなければ見えてこない多くの貴重な発見があった。『宝来講道中細見記』も、その成果の一部である。宝来講で何度も歩いた街道を、卒業生たちがさらに細密な道筋の調査などを加えて編集・執筆してくれたものである。本編に記述されているとおり、『宝来講道中細見記』は1992年に発行されたあと、1993年、1994年と2回の改訂をされて発行されたが、近年は『宝来講道中略記』の方を改訂・発行している。しかし、歩くための手本としては、『細見記』の方が順路が詳細に記述されているので役立つ。伊勢街道を歩きたいという人が増加するにつれて、『細見記』への要望が少なくない。今回、幸いにも奈良大学総合研究所の協力によって、復刻版を刊行することができ、市民の要望にも若干応えることができることとなった。

しかし、『復刻版 宝来講道中細見記』は平成6年発行の三訂版をそのまま復刻したので、平成6年以降の景観の変化や工事等にもなう街道筋の変更など、時の流れに伴う重大な変貌が記されていない。平成6年当時を示す大切な記録ではあるが、本書によって伊勢街道を歩いてみようという読者は、この点に充分留意していただきたい。

2002年12月20日

鎌 田 道 隆